

ニュース高等専修

平成 24 年度 定例 総会

会長に清水信一氏(武蔵野東技能高等専修学校長)を選出 大竹前会長、柏木二代目会長は顧問に



平成24年度の事業計画などを決めた本協会総会

24年度事業計画 地位向上と振興策の推進柱に 重点研究に情報公開と学校評価の推進も

全国高等専修学校協会の平成24年度定例総会が6月21日、東京・千代田区麴町のスクワール麹町で開かれました。

総会の冒頭、まず大竹通夫会長があいさつしました。「高等専修学校を取り巻く環境は大変厳しいですが、おかげさまで高等学校等就学支援金が高等専修学校も支給の対象となりました」と報告し、文部科学省に感謝の意を表明しました。さらに大竹会長は「本総会では任期満了に伴う役員の変更があり、4期8年、皆様のお力添えを得てなんとか前へ進むことができました。ご理解とご協力をいただいた皆様に大変感謝しています。今後は新しい会長のもと、会員一丸となって様々な課題に取り組んで乗り越えていきましょう」と述べました。

総会では第1号議案・平成23年度事業報告、第2号議案・同収支決算報告並びに監査報告をいずれも満場一致で承認されました。この後、第3号議案・平成24年度事業計画案、第4号議案・同収支予算案を審議、これらの議案も原案通り認められました。

同協会の24年度の活動方針は①高等専修学校の振興策の実現②高等専修学校と高等学校との格差の是正③組織力の強化など8本の柱を立て、これらを各委員会で具体的な事業として

推進していくことになります。

特に制度改善研究委員会(清水信一委員長)は、重点研究テーマに「情報公開及び学校評価の推進」と「専修学校教育の振興方策等に関する調査研究協力者会議報告での提言実現のための活動」を掲げています。具体的には情報公開の実施状況に関する文科省調査のフォローアップ調査を実施することになりました。また継続推進テーマとして、高等専修学校生の母校訪問を全国的に展開するほか、高等専修学校展の実施のための研究と普及啓発活動に努めます。

次に体育振興委員会(大貫二郎委員長)は第22回全国高等専修学校体育大会を7月24日から4日間、山梨県の富士北麓公園、河口湖町民体育館で開催し、軟式野球、バレーボール、バスケットボール、卓球、バドミントン、自転車競技、駅伝競走など10種目で熱戦が繰り広げられます。

また研修委員会は(岡部隆男委員長)は経営者・管理者を対象に「通信制・単位制」に関する研修会のほか、教職員対象の研修会も行います。

総務委員会(関谷豊委員長)は会報「ニュース高等専修」の発行、公式サイト運営、全国高等専修学校協会生徒表彰などを実施します。

第5号議案で、顧問に関する規約の一部改正を承認したあと、第6号議案では任期満了に伴う役員の変更が行われ、新会長に東京都の武蔵野東技能高等専修学校の清水信一校長を選出しました。また同協会二代目会長の柏木照明氏と三代目会長の大竹通夫氏が本協会の顧問に就任しました。

清水新会長は就任のあいさつで「大学入学資格付与指定校の協会としてスタートした本協会は、歴代の会長をはじめ、会員校の皆様の努力で社会的認知が低く、格差の多い高等専修学校を今日の姿に育ててくれました」と述べた上で、「高等専修学校を必要とする子供たちやそこで働く教職員のためにしっかり頑張っていきたいと思います。この学校種の地位向上や振興策を推進するために、皆様のご理解とご協力をお願いいたします」と語りました。

総会のあと研修会が開かれ、文部科学省生涯学習政策局の圓入由美専修学校教育振興室室長が「高等専修学校を取り巻く現状について」、また菅谷匠専修学校教育振興室第一係長が「高等専修学校における通信制・単位制制度の創設について」と題して講演しました。

このあと、国際美容美容専門学校の佐谷肇学務課長、国際製菓専門学校の渡辺純子主任が通信制教育について事例発表を行いました。

平成24・25年度 新役員決まる

同協会の平成24・25年度役員は次の通りです。(敬称略)

▷顧問＝柏木照明(大和商業高等専修学校)大竹通夫(大竹高等専修学校)▷会長＝清水信一(武蔵野東技能高等専修学校)▷副会長＝岡部隆男(研修委員長、郡山学院高等専修学校)大貫二郎(体育振興委員長、生蘭高等専修学校)大岡豊(制度改善研究委員長、大岡学園高等専修学校)関谷豊(総務委員長、立修館高等専修学校)▷理事＝小川明治(名古屋工学院専門学校)畑修(磐城学芸専門学校)細谷祥之(細谷高等専修学校)小倉基宏(専門学校群馬自動車大学校)大塚史朗(専門学校野田鎌田学園)谷誠(東放学園高等専修学校)渋谷通江(杉並高等専修学校)鈴木正(ココスカ調理師専門学校)竹森好美(駿河学院実務専門学校)前川悟(大阪技能専門学校)石川正一(大育高等専修学校)▷監事＝高橋信一(苫小牧高等商業学校)小山充子(大森家政専門学校)

清水信一新会長に聞く

後期中等教育で一層の存在感示そう

■振興策のさらなる推進

平成24年度の本協会定例総会で、第四代会長に選出されました。振り返れば昭和61年、高等専修学校指定校協議会として発足したこの協会は、村田照子初代会長、柏木照明二代目会長、大竹通夫前会長と続く歴代会長のリーダーシップのもと、昭和51年に誕生した新しい学校種である高等専修学校と一条校との格差是正に取り組んで参りました。これまで緒先輩が築き上げた実績と、高等専修学校の社会的地位をスイッチバック（後退）させることなく、私の代においても高等専修学校の振興に力を入れていく所存です。

柏木会長時代の後半から取り組んできた高等専修学校的一条校化は、専修学校の振興に関する検討会議や、中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会の議論を経た結果、最終答申では言及されず、残念ながら一条校の可能性は断たれてしまいました。もともと専修学校的一条校化については我々全国高等専修学校協会が声をあげ、平成15年度には既に運動目標にも入れて文部科学省の関係者と制度設計を進めるなど、先駆けて取り組んできたものです。しかし最終局面を迎えた中教審特別部会の場では、話題に上ることが極めて少なく、置き去りにされてしまった感は否めません。高等専修学校関係者が少ないという審議会委員の顔ぶれもそうですが、生徒数の規模など様ざまな面において、「数の論理」に屈したというのが実感です。

■高等専修学校の役割

高等専修学校は、15歳人口の多い時代、「15の春を泣かすな」の合言葉のもと、公私立の高等学校の進学が難しい生徒の大きな受け皿となりました。ピーク時の平成元年には全国で11万7千人の在校生を抱えました。

ところが、少子化に伴い生徒数はピーク時の4分の1ほどになり、社会的な認知度も次第に低下しているのが現状です。私は都中進（東京都中学校進路指導連絡協議会）の先生方と意見交換を行っていますが、「今の40代以下の中学校の先生は、高等専修学校の存在をまったく知らない」とはっきり言われました。

しかし、高等専修学校は少子化の進行により淘汰される存在ではなく、その役割は時代と共に変化しています。今の高等専修学校の姿をできるだけ早く、正しく理解してほしい。こうした「社会認知の向上」が、全国高等専修学校協会の会長として私が取り組む第1の課題です。

後期中等教育においては、まず既存の高等学校で学びにくい子ども達が数多く存在するという現実があります。高校に入っても、中退や不登校によって卒業を迎えることができません。さらに定時制や通信制教育の内容も以前と



しみず・しんいち 本協会の副会長及び制度改善研究委員会委員長、公益社団法人東京都専修学校各種学校協会副会長、同高等専修学校部会代表幹事。「専修学校教育の振興方策等に関する調査研究協力者会議」委員、「専修学校振興における財政措置の在り方等に関する調査研究協力者会議」委員、さらに今年5月スタートした「専修学校の質保証・向上に関する調査研究協力者会議」委員など公職多数、学校法人武蔵野東学園・武蔵野東技能高等専修学校校長。

は様変わりしました。今の定時制（夜間高校）で昼間働いている生徒はほとんど見られず、多くは普通高校に居場所を見い出せない子ども達です。また通信制高校で学ぶ生徒は約18万人といわれていますが、卒業まで辿りつく生徒は4割にも満たず、卒業しても進学や就職をしない子どもも少なくありません。

こうした状況の中で、高等専修学校はいち早く高校中退や不登校の生徒を受け入れてきました。高等専修学校は基本的に少人数制の学校が多く、一旦受け入れた生徒は、職業教育を介して豊かな人格形成に至るまで、一人ひとり徹底的に面倒を見ようとする校風が浸透しています。高校に居場所を見つけれなかった生徒が、高等専修学校の親身な教育によって将来への希望を持つ。こうした教育成果に一定の評価を得られ、チャンレンジスクールなどの都立高校改革においても、そのスタート時に我々に意見やアドバイスを求めてきました。

■特別支援教育の役割も

高校中退や不登校の生徒の受け皿に続き、高等専修学校がいち早く取り組んだのが特別支援教育です。特に東京では私達の働きかけにより、平成15年から、私立学校振興助成法の適用外の施策として、東京都独自の補助金制度から特別支援の助成が措置されました。

そして初年度から全ての会員校が補助金を申請し、平成24年度は176人に対し約6800万円が助成されています。障害の認定範囲が広がったため、どの学校にも必ず数名は支援が必要な生徒が存在するという事です。これは東京だけでなく全国的な傾向です。

今後、特別支援教育は国策として、国公立の特別支援学校増設といった形で推進されますが、高等専修学校におけるきめ細やかな教育は、これからも変わらず需要があると確信しています。

■「専修高校」を提唱

普通高校に適応できない生徒の受け皿と、特別支援教育の場。こうした今日の高等専修学校の役割を、協会では都道府県あるいは学校単位で積極的に説明会を開催したり、各種ツールを制作するなどして、高等専修学校の理解を促す地道な活動を今後も継続していきます。同時に、戦略的な面からも様ざまな社会認知に向けた取り組みを進める考えです。

ひとつ提唱しているのは、「高等専修学校」から「専修高等学校」への名称変更。専修学校イコール専門学校という印象が強い中で、学校名による認識の難しさが最大の問題と捉えています。社会的認知を獲得する有効な手段として、「専修高校」の実現に向けて活動していきます。

■財政支援格差の是正

第2の課題は財政支援に対する格差の是正です。高等学校等就学支援金は高等専修学校にも認められましたが、母子家庭などの加算支給の比率についてはなお差があります。また先ほどお話しした特別支援教育の助成金も、東京都の場合、高校は96.8万円、高等専修学校は39.2万円、ここにも差があります。

これらについては改正の議論になったときにしっかりと理論武装できるよう、例えば母子家庭の比率や、発達障害児の就労率などを正確に把握することが急務であり、協会としてアンケートを実施する予定です。

さらに自治体の運営費補助についても、私立学校振興助成法が適用される私立高校の全国平均が約32万円であるのに対し、高等専修学校は6万円です。内訳についても最高額の大阪が27万円、東京は15万円、岡山や四国はゼロという非常に地域格差があります。これは一定の基準がないことが原因ですが、そこを国として把握し、地域格差を解消してほしいという陳情をしていかなければなりません。

昨年の協力者会議では、「公共財の投入」の観点から、格差解消の合理性が認められました。同時に、専門課程は国、高等課程は都道府県の管轄という区分も明確になりました。ただ高等課程の財源を用意するのは国ですが、法律が存在しない現在、どのように対応するのか……この動向も注視する必要があります。

いずれにせよ、様ざまな運動によって社会的認知をできる限り早い段階で実現し、より多くの方に高等専修学校を認識してもらおうとともに、財政支援に対する地域格差の是正に邁進する。一条校化の可能性は断たれましたが、きっぱりと姿勢を切り替え、この2つを大きな課題として高等専修学校の振興を推進してまいります。厳しい時代ですが、会員校が結集して団結すれば乗り越えられると信じています。

文科省の「調査研究協力者会議」が 報告書まとめる

「専修学校教育の振興方策等に関する調査研究協力者会議」(黒田壽二座長)は昨年3月、～多様な学習機会の充実と教育の質向上等に向けて～という副題のついた調査研究報告をまとめました。

学識経験者、専修学校関係者、行政担当者ら13人の委員で構成された協力者会議は、平成21年11月に文科省に設置され、専修学校の教育内容・方法の改善・充実や、多様な学習ニーズへの対応などを検討課題に、非公開で15回の会議が開かれました。

専修学校側からは、清水信一全国高等専修学校協会副会長(当時)が同協力者会議の委員に名を連ねています。

報告は、経済社会構造の変化と専修学校教育という検討の背景を述べた上で、認識すべき課題として①学校教育における進学のみスマッチへの対応と専修学校における教育の質向上②多様な学習者の多様な学習ニーズへの対応

③就業構造の変化への対応の3点を挙げています。その上で、今後めざすべき方向性の基本的な考え方として次の2点を指摘しています。

まず「職業教育の中核的機関として、多様な学習者のニーズや社会の様々な要請に適切に応える学習機会の提供とともに、その教育の質を向上させることにより、専修学校教育に対する社会の信頼を高めていくこと」と併せ、「専修学校教育に対する理解増進のための積極的な措置を講じることを通じ、より多くの人々の専修学校教育へのアクセスを促していく」と述べています。

この基本的な考えに加えて、「社会の幅広いニーズに応える多様な学習機会の提供等」を踏まえ、必要な措置として7つの視点に整理して今後の対応方策を提案しました。

視点1では「社会人等の多様なライフスタイルに即した専門学校等の学習機会の充実を図る」観点から、働きながら学ぶ学習者等に「通信制学科」や「単位制による学科」の制度化を提案。また企業内訓練の外部化や、公共職業訓練の委託の受け皿として専門学校を活用するため、短期講座等への正規課程上の位置付け付

与、短期教育プログラムの開発・モジュール化の促進など様々な方策を打ち出しています。

また「より自由度の高い学校種としての特性を踏まえつつ、専修学校のガバナンス改善等に向けた評価と情報公開の取り組みを促進する」ことから、自己点検・評価の取り組みの目安を示す「ガイドライン」の作成・公表、第三者評価等の取り組みの支援・促進も視点の柱になっています。

これらの提言を受けて文部科学省では、今年4月に「専修学校の質の保証・向上に関する調査研究協力者会議」(座長＝黒田壽二・金沢工業大学学長)を設置、専修学校固有の課題等への対応を図る観点から、社会の要請に応える専修学校の質の保証・向上に関する調査研究を行っています。

主な検討課題は①専修学校の自己評価、学校関係者評価等の改善・充実について②教職員の資質向上等に関する取組の改善・充実について③質の保証等に係わる専修学校設置基準の在り方、などとなっています。

高等専修学校側からは、全国高等専修学校協会の清水信一会長が委員を務めております。

第22回全国高等専修学校体育大会 「感謝」の気持ち込め盛大に開会式



開会式で選手宣誓する渡辺選手(左)と木幡選手

高等専修学校生のスポーツの祭典「第22回全国高等専修学校体育大会」(全国高等専修学校協会、特定非営利活動法人NPO高等専修教育支援協会主催、文部科学省、山梨県、富士吉田市、富士河口湖町、財団法人JKA後援)が7月24日から4日間、山梨県富士吉田市の富士北麓公園体育館をメイン会場に開かれました。

大会には福島、東京、大阪、兵庫など7都府県19校の選手が参加。軟式野球、バレーボール、バスケットボール、陸上競技、自転車など10競技36種目で熱戦が繰り広げられました。

富士北麓公園体育館で開かれた開会式には、大会役員や選手ら約700人が出席。主催者を代表して全国高等専修学校協会の清水信一会長が、「高体連に参加できない我々が、平成3年

から全国の先生方と手を合せて、手づくりの全国大会を開催しました。皆さんの熱いプレーで素晴らしい大会になることを祈念します」とあいさつしました。

またNPO高等専修教育支援協会の堀居英治理事長は「この大会は多くの後援団体に支えられて運営しています。来賓や大会関係者、保護者ら一人ひとりに感謝の気持ちを伝えましょう」と述べました。

これに応じて、被災地から元気良く出場した郡山学院高等専修学校(福島県)の木幡直樹選手、今泉女子専門学校高等課程(同)の渡辺は



開会式であいさつする＝写真左から＝全国高等専修学校協会・清水信一会長、NPO高等専修教育支援協会・堀居英治理事長、文部科学省専修学校教育振興室・佐藤秀雄室長補佐

るか選手が「どんなことにも負けずに古里復興のために頑張ります」と決意を表明したあと「正々堂々と全力でプレーすることを誓います」と力強く選手宣誓を行い、各種目で熱い戦いが展開されました。(成績結果は4面に)



成績結果

■バレーボール

【男子】①大竹高等専修学校②大和商業高等専修学校
【女子】①大和商業高等専修学校②大竹高等専修学校③日本芸術高等学園

■軟式野球

①町田調理師専門学校高等課程②武蔵野東技能高等専修学校

■バスケットボール

【男子】①大和商業高等専修学校②町田調理師専門学校高等課程③日本芸術高等学園
【女子】①専門学校野田鎌田学園高等課程②町田調理師専門学校高等課程③大竹高等専修学校

■卓球

【男子】▼団体①武蔵野東技能高等専修学校②郡山学院高等専修学校

▼個人①佐藤隼人(町田調理師専門学校高等課程)②小林稔典(武蔵野東技能高等専修学校)③露木武(生蘭高等専修学校)④小池広晃(武蔵野東技能高等専修学校)

【女子】▼団体①武蔵野東技能高等専修学校②郡山学院高等専修学校

▼個人①及川加奈(武蔵野東技能高等専修学校)②坂坂由希子(同)③清田さや香(同)④上田佑香(大岡学園高等専修学校)

■フットサル

①専門学校野田鎌田学園高等課程②大和商業高等専修学校③大竹高等専修学校

■バドミントン

【男子】▼団体①町田調理師専門学校高等課程②生蘭高等専修学校

▼個人①清水健亮(生蘭高等専修学校)②和方翔(町田調理師専門学校高等課程)③友崎純人(同)④中嶋天斗(生蘭高等専修学校)

【女子】▼団体①今泉女子専門学校高等課程②生蘭高等専修学校

▼個人①渡辺はるか(今泉女子専門学校高等課程)②加納怜奈(生蘭高等専修学校)③青木遥(今泉女子専門学校高等課程)④下永吉優希菜(大竹高等専修学校)

■自転車

【男子】▼団体①大竹高等専修学校②生蘭高等専修学校③専修学校中部国際自動車大学校高等課程

▼個人①辻本慎(杉並高等専修学校)②藤重佳也(同)③志村翔(大竹高等専修学校)

【女子】▼団体①大竹高等専修学校②武蔵野東技能高等専修学校③生蘭高等専修学校

▼個人①相田晴菜(大竹高等専修学校)②堀越奏実(同)③牧野祥子(同)

■スポーツ吹矢

▼団体①武蔵野東技能高等専修学校②大竹高等専修学校③生蘭高等専修学校

▼個人①平野千尋(大竹高等専修学校)②三浦啓太(武蔵野東技能高等専修学校)③青木紀樹(同)④石井大地(同)

■駅伝競走

【男子】①武蔵野東技能高等専修学校②生蘭高等専修学校A③近畿情報高等専修学校

【女子】①大竹高等専修学校②生蘭高等専修学校

■陸上

▼種目別成績結果

【男子】▽100m決勝①井上真(専門学校野田鎌田学園高等課程)②岸元圭汰(大竹高等専修学校)③影山剛志(郡山学院高等専修学校)

▽200m決勝①石川翔(大竹高等専修学校)②影山剛志(郡山学院高等専修学校)③志野博紀(生蘭高等専修学校)

▽400m決勝①南寛輝(近畿情報高等専修学校)②田畑貴大(同)③本山要(生蘭高等専修学校)

▽800m決勝①小林貴大(郡山学院高等専修学校)②村山大悟(武蔵野東技能高等専修学校)③二村直樹(生蘭高等専修学校)

▽1500m決勝①宮部広季(武蔵野東技能高等専修学校)②沖元太一(同)③村山大悟(同)

▽5000m決勝①宮部広季(武蔵野東技能高等専修学校)②沖元太一(同)③湯浅達也(同)

▽4×100mリレー決勝①専門学校野田鎌田学園高等課程②近畿情報高等専修学校③大竹高等専修学校

▽走り高跳び①南部翔輝(大和商業高等専修学校)②下平昂(生蘭高等専修学校)

▽走り幅跳び①井上真(専門学校野田鎌田学園高等課程)②南部翔輝(大和商業高等専修学校)③飯塚翔太(専門学校野田鎌田学園高等課程)

▽砲丸投げ①喜渡良彦(大竹高等専修学校)②杉原啓太(同)③松岡時生(大和商業高等専修学校)

【女子】▽100m決勝①石川祐奈(生蘭高等専修学校)②相田晴菜(大竹高等専修学校)③岩見谷未稀(大和商業高等専修学校)

▽200m決勝①石川祐奈(生蘭高等専修学校)②相田晴菜(大竹高等専修学校)③野村美綺(生蘭高等専修学校)

▽400m決勝①石川祐奈(生蘭高等専修学校)②野村美綺(同)③姉川楓(大和商業高等専修学校)

▽800m決勝①堀越奏実(大竹高等専修学校)②姉川楓(大和商業高等専修学校)③篠原佳那(大竹高等専修学校)

▽1500m決勝①堀越奏実(大竹高等専修学校)②篠原佳那(同)③田中くるみ(専門学校野田鎌田学園高等課程)

▽4×100mリレー決勝①生蘭高等専修学校②大竹高等専修学校

▽走り高跳び①岩見谷未稀(大和商業高等専修学校)

▽走り幅跳び①岩見谷未稀(大和商業高等専修学校)

▽砲丸投げ①館下愛美(大和商業高等専修学校)

発行:全国高等専修学校協会

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25(私学会館別館)
TEL.03(3230)4814 FAX.03(3230)2688